

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

西沢溪谷—コバルトブルーに魅せられて—

七ツ釜五段ノ滝



冬枯れの日、古い友人K君と奥秩父・西沢溪谷に出かけた。塩山から西沢溪谷に向かい1日3～4本のバスが出ているが、12月～4月が期間運休と聞き、11月末日、駆け込みで出かけることにしたものである。

前日は塩山駅近くの温泉旅館に泊まり、地元の酒を酌み交わしながら積もる話に花が咲いた。実は、山よりもこれが本命？。

翌朝、西沢溪谷入口行きバスは、9時5分塩山駅発。西沢溪谷入口到着10時5分。

バス停前の東沢山荘は、以前は宿泊・入浴もやっており、若い頃、泊り込みで夕食の名物「縄文料理」に舌鼓を打った記憶があるが、今は細々と売店だけの営業の由。

バス停から、笛吹川左岸沿いに舗装された車道を進み、ナレイ沢、ヌク沢を渡り、甲武信岳への登山路を右に分けると間もなく11時、休業中の西沢山荘の前に出る。近くに田部重治文学碑があり、山の大先輩に敬意を表してうやうやしく一礼。

間もなく、二俣吊橋で東沢を渡ると、いよいよ西沢溪谷の遊歩道が始まる。遊歩道と言うものの、なかなかどうして岩を乗り越し

乗り越え、時には鎖にすがってのハードな登り下りが連続する。三重ノ滝、フグ岩、人面洞、竜神ノ滝、貞泉ノ滝と、釜や淵が次から次と現れる。しかも、どの釜も淵も、目の覚めるようなコバルトブルーが映える。K君曰く、この真っ青に澄んだ水で、飯を炊いて食べたいな、と。しかし、それはダメ。この異常なまでのコバルトブルーは、黒金鉱山の鉱毒を含んでいるせいとか。

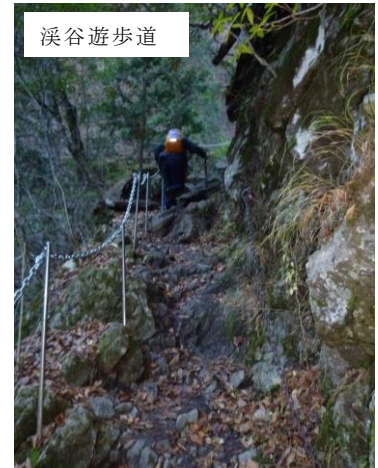
次いで母胎淵を過ぎ、方丈橋を渡って右岸に移り、ちょっと高みに出ると、目の前の対岸一杯に七ツ釜五段ノ滝が視界を圧する。西沢溪谷を代表する表看板の堂々たる景観である。

七ツ釜五段ノ滝を鑑賞した後は、沢縁を離れて

右岸の斜面を喘ぎあえぎ急登し、13時、不動避難小屋に辿り着いて一息入れた。

ここからの帰路は、かつて黒金鉱山が鉱石を搬出した、西沢溪谷右岸の山腹をへつるトロッコ道跡を辿る。坦々とした下り道。所どころの沢の横断には、トロッコ道跡らしく頑丈な吊橋が連続する。最後に、笛吹川をネトリ橋で左岸に渡り、今朝歩いた車道を戻って元のバス停帰着14時半。14時40分発のバスに辛くも間に合った。

溪谷遊歩道



貞泉ノ滝



コバルトブルー

